

令和3年度 仙台市教育センター 音楽科研修会

新学習指導要領を踏まえた音楽科の指導と評価



【オンデマンドによる研修】

国立教育政策研究所教育課程研究センター
教育課程調査官 河合 紳和



本日の内容

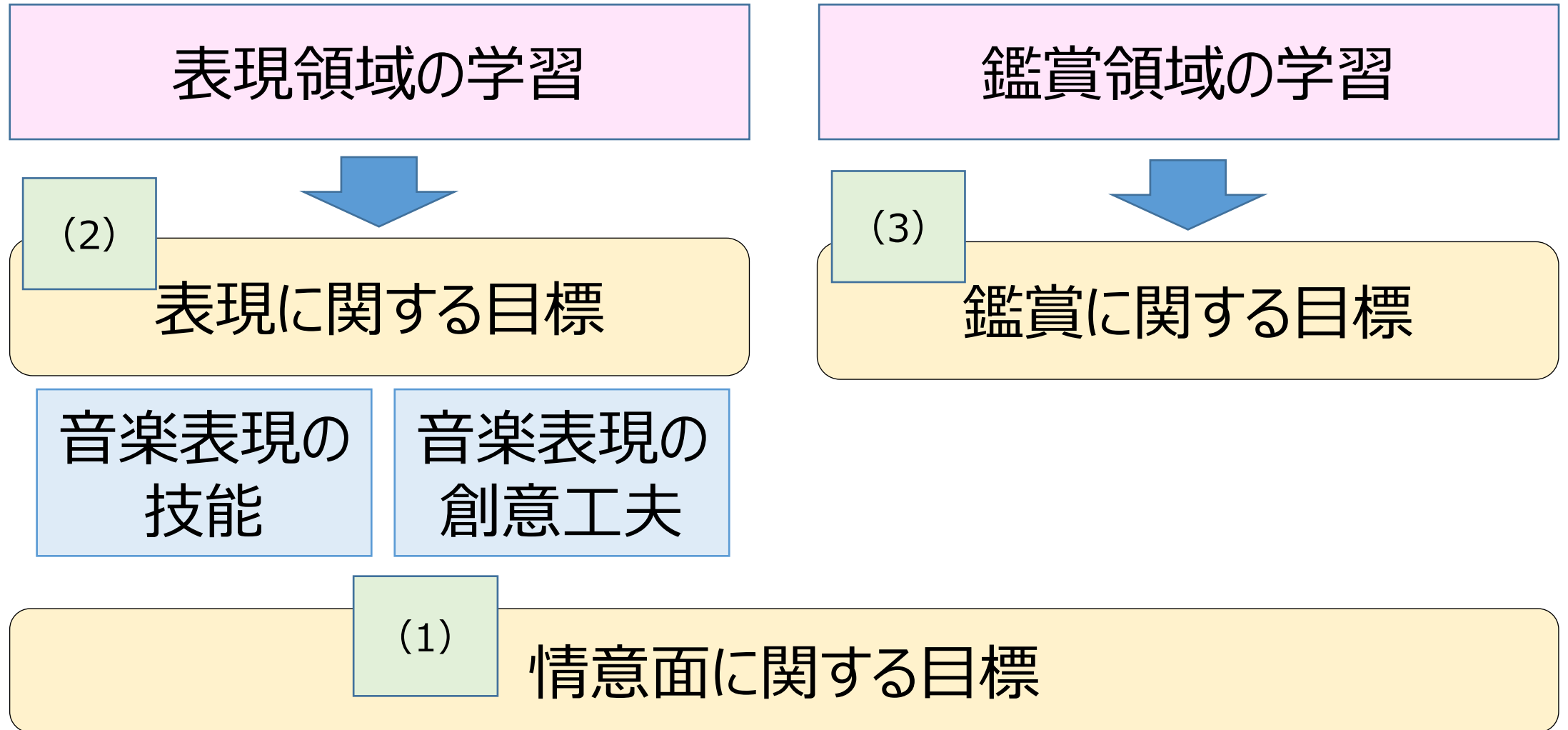
- 1 育成を目指す資質・能力の三つの柱
- 2 音楽的な見方・考え方
- 3 主体的・対話的で深い学び
- 4 言語活動の充実
- 5 指導と評価の一体化
- 6 音楽科におけるICTの活用



1 育成を目指す資質・能力の三つの柱



従前の学習指導要領（中学校音楽科）



新学習指導要領

表現領域及び鑑賞領域の学習

(1)

知識
及び
技能

(2)

思考力,
判断力,
表現力等

(3)

学びに向
かう力,
人間性等



中学校音楽科の目標（平成29年告示）

表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。

(1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

知識及び技能

(2) 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。

思考力，判断力，表現力等

(3) 音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情を育むとともに、音楽に対する感性を豊かにし、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。

学びに向かう力，人間性等

何が
できる
ように
なるか



目標と内容における資質・能力の系統立て

小・中・高で同じ構造
になっている

資質・能力		知識及び技能		思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
		知識	技能		
教科の目標		(1)		(2)	(3)
学年の目標		(1)		(2)	(3)
内容	A表現	イ	ウ	ア	*
	B鑑賞	イ	—	ア	
	〔共通事項〕	イ	—	ア	



従前の学習指導要領における内容（中学校 第1学年）

教師が

A 表現

- (1) 歌唱の活動を通して、**次の事項を指導する。**
 - ア 歌詞の内容や曲想を感じ取り、表現を工夫して歌うこと。
 - イ 曲種に応じた発声により、言葉の特性を生かして歌うこと。
 - ウ 声部の役割や全体の響きを感じ取り、表現を工夫しながら合わせて歌うこと。



新学習指導要領における内容（中学校 第1学年）

生徒が

A 表現

(1) 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり

(イ) 声の音色や響き及び言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり

ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能

(イ) 創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能



資質・能力の関連付け

【指導計画の作成と内容の取扱い】

「A表現」の（１），（２）及び（３）の指導については，ア，イ及びウの各事項を，「B鑑賞」の（１）の指導については，ア及びイの各事項を適切に関連させて指導すること。

〔共通事項〕は，表現及び鑑賞の学習において共通に必要な資質・能力であり，「A表現」及び「B鑑賞」の指導と併せて，十分な指導が行われるよう工夫すること。



目標と内容における資質・能力の系統立て

資質・能力		知識及び技能		思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
		知識	技能		
教科の目標		(1)		(2)	(3)
学年の目標		(1)		(2)	(3)
内 容	A 表現	イ	ウ	ア	*
	B 鑑賞	イ	—	ア	
	〔共通事項〕	イ	—	ア	



目標と内容における資質・能力の系統立て

資質・能力		知識及び技能		思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
		知識	技能		
教科の目標		(1)		(2)	(3)
学年の目標		(1)		(2)	(3)
内 容	A 表現	イ	ウ	ア	*
	B 鑑賞	イ	—	ア	
	〔共通事項〕	イ	—	ア	



2 音楽的な見方・考え方



音楽的な見方・考え方

「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などに関連付けること」

音や音楽のよさや美しさなどの質的な世界を価値あるものとして感じ取るとき心の働き

音楽がどのように形づくられているか、音楽をどのように感じ取るかを明らかにしていく

〔共通事項〕と関わらせて



音楽的な見方・考え方

「音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、**自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること**」

音楽表現を創意工夫したり音楽を解釈したりするなどの学習は一層深まっていく

人間にとって意味あるもの

音楽科を学ぶ本質的な意義の中核をなすもの



音楽的な見方・考え方を働かせて学習をすることによって、実感を伴った理解による「知識」の習得，必要性の実感を伴う「技能」の習得，質の高い「思考力，判断力，表現力等」の育成，人生や社会において学びを生かそうとする意識をもった「学びに向かう力，人間性等」の涵養が実現する。

音楽的な見方・考え方を働させることが目標ではない

音楽的な見方・考え方は，音楽的な見方・考え方を働かせた音楽科の学習を積み重ねることによって広がったり深まったりするなどし，その後の人生においても生きて働くものとなる。

音楽的な見方・考え方を広げたり深めたりすることが目標ではない



3 主体的・対話的で深い学び



「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善

主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち，自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら，見通しをもって粘り強く取り組み，自己の学習活動を振り返って次につなげる

対話的な学び

子供同士の協働，教職員や地域の人との対話，先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ，自己の考えを広げ深める

深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で，各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら，知識を相互に関連付けてより深く理解したり，情報を精査して考えを形成したり，問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりする

教科等の本質に迫る学び



主体的・対話的で深い学び

- 1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。
 - (1) 題材など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、**生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること**。その際、音楽的な見方・考え方を働かせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさを見いだしたりするなど思考し、判断し、表現する一連の過程を大切にした学習の充実を図ること。

(中学校解説 p. 92)



対話的な学び

○誰と対話するのか？

子供同士の協働，教職員や地域の人との対話，先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ，**自己の考えを広げ深める「対話的な学び」**…
(中学校学習指導要領 総則)

「先哲」= 昔のすぐれた思想家（「広辞苑」より）

- ・音楽作品 ・演奏
- ・作詞者，作曲者，演奏者のメッセージ
- ・作品解説，評論…

作品との対話



○音楽科・芸術科音楽における「対話的な学び」

「対話的な学び」の実現のためには、一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽表現をしたり音楽を聴いたりする過程において、互いに気付いたことや感じたことなどについて言葉や音楽で伝え合い、音楽的な特徴について共有したり、感じ取ったことに共感したりする活動が重要である。客観的な根拠を基に他者と交流し、自分なりの考えを持ったり音楽に対する価値意識を更新したり広げたりしていく過程に学習としての意味がある。

(H28.12 中教審答申)



○音楽科・芸術科音楽における「対話的な学び」

「対話的な学び」の実現のためには、一人一人が「音楽的な見方・考え方」を働かせて、音楽表現をしたり音楽を聴いたりする過程において、互いに気付いたことや感じたことなどについて言葉や音楽で伝え合い、音楽的な特徴について共有したり、感じ取ったことに共感したりする活動が重要である。客観的な根拠を基に他者と交流し、自分なりの考えを持ったり音楽に対する価値意識を更新したり広げたりしていく過程に学習としての意味がある。

(H28.12 中教審 答申)

言語化の結果より、言葉で表現するまでの過程を重視



対話的な学び

⇔「対話による学び」

どのような場面が考えられるでしょうか？

- ・話し合い
 - ・批評カードの交換
 - ・ノート, ワークシート
 - ・振り返りシート
 - ・作詞者, 作曲者, 演奏者のメッセージ
 - ・**範唱(範奏)と模倣唱(模倣奏)**
 - ・**指揮に合わせた演奏**
- など

様々な形態による「対話的な学び」を効果的に取り入れる



4 言語活動の充実



音楽から受けた感動は、言語化することによって味気ないものになってしまうのでは？

「すごいな」「イイな」と感じたのはなぜだろう？



繰り返し歌う、繰り返し演奏する
繰り返し音楽を聴く

音楽的な
見方・考え方

何とか自分の知っている言葉で表現しようとする

主体的に音楽と向き合う



音楽 = 自分にとって価値あるもの



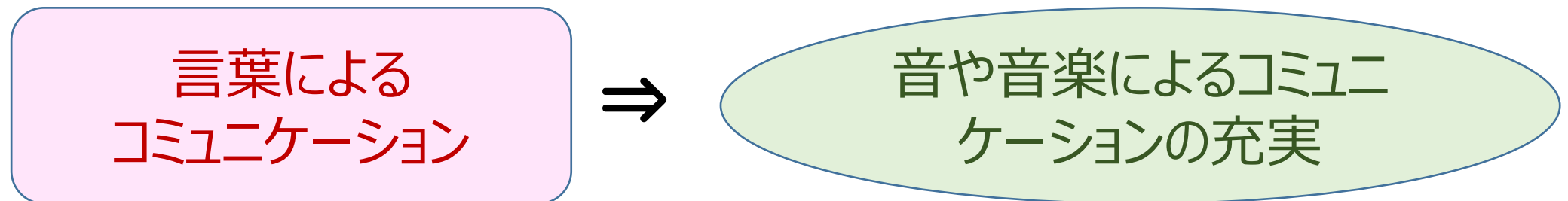
音楽によって喚起された自己のイメージや感情，思いなどを他者と伝え合ったり，他者がどのようなことを意図しているのかをよく考えて，それに共感したりするためには，**言葉によるコミュニケーション**が必要となる。

(中学校解説 p. 100)



音楽活動は、本来、音によるコミュニケーションを基盤としたものであり、言葉によるコミュニケーションとは異なる独自の特徴をもっている。一方、音楽科の学習においては、言葉によるコミュニケーションを適切に位置付けることによって、音や音楽によるコミュニケーションを充実させることができる。したがって、生徒が音楽に関する言葉を用いて、音楽によって喚起されたイメージや感情、音楽表現に対する思いや意図などを相互に伝え合う活動を取り入れることによって、結果として、音によるコミュニケーションが一層充実することに結び付いてくよう配慮することが大切である。

(中学校解説 p. 100)



- 言語活動がやや目的化し，音楽表現そのものを高めることや，音楽のよさ等を味わって聴くことが十分でない傾向が見られる。

(H27.8 中教審教育課程部会「論点整理」)

言語活動の能力を育成することそのものが目的ではない

自分の考え方や感じ方を深めていくことが大切

評価においても留意が必要

- ✕ 発言が多いか少ないかで評価
- ✕ 語彙力，国語力で評価



例えば、表現の活動においては、表したい思いや意図を言葉で伝え合いながら、**実際に歌ったり演奏したりして音楽表現を高めていく楽しさを味わう**ようにすることが考えられる。また、鑑賞の活動では、音楽を聴いて気付いたことや感じ取ったことなどの様々な意見を共有した後、**視点をもって、再度音楽を聴く**ことにより、音楽をより味わって聴くようにすることが考えられる。

(小学校解説 p. 124)



5 指導と評価の一体化



学習評価の在り方 ハンドブック

「指導と評価の一体化」のための 学習評価に関する参考資料

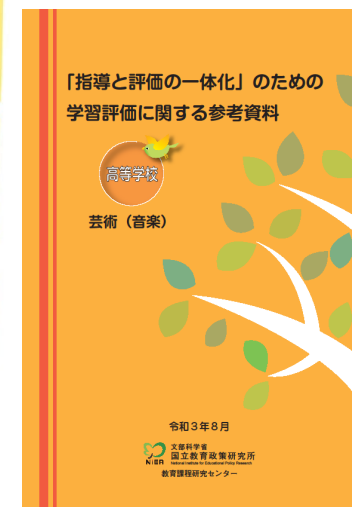
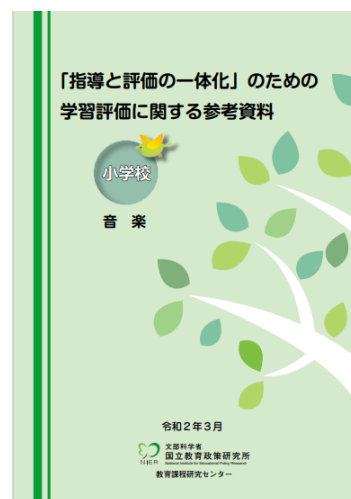
【小・中学校編】

【高等学校編】

【小学校 音楽】

【中学校 音楽】

【高等学校 芸術（音楽）】



<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryu.html>



観点別学習状況の評価

学校における生徒の学習状況を，複数の観点から，それぞれの観点ごとに分析する評価

- ・どの観点で望ましい学習状況が認められるか
- ・どの観点到課題が認められるか

を明らかにする

具体的な学習や指導の改善に生かす



4 観点から 3 観点へ

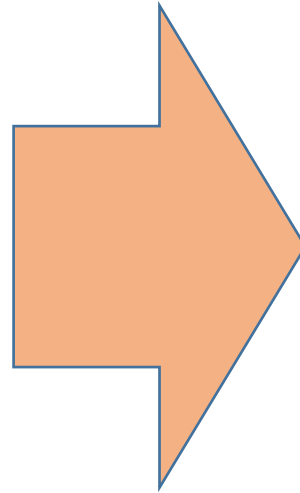
[平成20年, 21年改訂]

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解



[平成29年, 30年改訂]

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に
取り組む態度



資質・能力の三つの柱と新しい評価の観点

育成を目指す資質・能力

知識及び技能

思考力, 判断力, 表現力等

学びに向かう力, 人間性等

評価の観点

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に取り組む態度

評定

個人内評価



「主体的に学習に取り組む態度」の評価の方法

「主体的に学習に取り組む態度」に係る各教科等の評価の観点の趣旨に照らし、

- ① 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面と、
- ② ①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面という二つの側面を評価することが求められる。



「自らの学習を調整しようとする」とは…

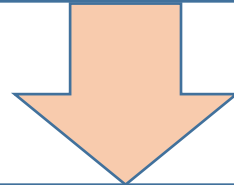
自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら学ぼうとしているかどうかという**意思的な側面**を評価

各教科等の特質に応じて、生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、「**知識・技能**」や「**思考・判断・表現**」の観点の**状況を踏まえた上で**、評価を行う必要がある。



題材の構想と学習評価

育成を目指す資質・能力を評価と一体的に考えて題材を構想する



学習指導要領に示された教科・学年の目標，「内容のまとまりごとの評価規準」を踏まえて学習評価を行う



中学校音楽科における内容のまとめ

[第1学年]

「A表現」(1) 歌唱 及び 〔共通事項〕 (1)

「A表現」(2) 器楽 及び 〔共通事項〕 (1)

「A表現」(3) 創作 及び 〔共通事項〕 (1)

「B鑑賞」(1) 鑑賞 及び 〔共通事項〕 (1)

[第2学年及び第3学年]

「A表現」(1) 歌唱 及び 〔共通事項〕 (1)

「A表現」(2) 器楽 及び 〔共通事項〕 (1)

「A表現」(3) 創作 及び 〔共通事項〕 (1)

「B鑑賞」(1) 鑑賞 及び 〔共通事項〕 (1)



「指導と評価の一体化」のポイント①

評価の場면을精選する

日々の授業の中で生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置く



観点別の学習状況の評価は、単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現を把握できる段階で行うなど、**その場면을精選することが重要**



例：「題材全体の学習指導における評価の位置付けと回数」（事例1より）

題材全体の学習指導		評価の位置付け			
時	主な学習内容	評価の観点と主な評価の対象			評価の回数
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1	・「荒城の月」, 「早春賦」の歌詞の内容, 曲想などに関心をもつ。				0
2	・音楽を形づくっている要素を知覚・感受し, 「荒城の月」を歌唱する。				0
3	・前時の学習を生かして, 「早春賦」の音楽表現を創意工夫する。	知 曲想と音楽の構造等との関わりの理解	思 音楽を形づくっている要素の知覚・感受に基づく歌唱表現の創意工夫		2
4	・曲にふさわしい表現で主体的に「早春賦」を歌唱する。 ・題材全体の学習の振り返りをする。	技 創意工夫を生かして歌う技能		態 学習活動に対する主体的・協働的な取組	2



「指導と評価の一体化」のポイント②
評価方法を工夫する

各教科等の特質に応じて、多様な評価方法を適切に取り入れて評価を行う

音楽科では…

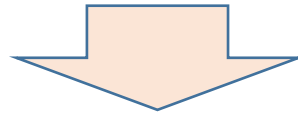
演奏，作品，ノート，ワークシート，発表やプレゼンテーション，グループでの話し合いでの発言，活動時の観察，自己評価や相互評価，ポートフォリオ… などが考えられる



「指導と評価の一体化」のポイント③

生徒の思考・判断のよりどころとなる
主な音楽を形づくっている要素を明確にする

その題材の学習内容を踏まえて適切に選択し、題材の評価
規準の「思考・判断・表現」に位置付ける



- ・学習の内容を具体化する
- ・指導のねらいを明確にする
- ・指導の改善に生かしやすくする



複数の領域や分野の関連を図った題材

事例 4 : 創作と鑑賞との関連を図った題材

生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を**共通**に**選択**し、評価規準に位置付けている。

複数の領域や分野の関連を図った題材を設定する場合における

- **題材の目標**の設定
- **題材の評価規準**の作成
- **指導と評価の計画**の作成
- **観点別学習状況の評価の進め方**

の参考例としても活用できる



知識

- ・音楽を形づくっている要素などの働きについて実感を伴いながら理解し、表現や鑑賞などに生かすことができるようにする。
- ・音楽に関する歴史や文化的意義を、表現や鑑賞の活動を通して、自己との関わりの中で理解できるようにする。

技能

- ・創意工夫の過程でもった音楽表現に対する思いや意図に応じて、その思いや意図を音楽で表現する際に自ら活用できる技能のことである。
- ・創意工夫の過程で、様々な音楽表現を試しながら思いや意図を明確にしつつ、また技能も習得されていくというような指導が必要となる。



6 音楽科におけるICTの活用



音楽科，芸術科音楽におけるICT活用の利点

- 聴覚だけでなく，視覚などの他の感覚を働かせて音や音楽を捉えながら，音楽表現を創意工夫したり，音楽を聴き深めたりすることができる。
- 創作の学習において，つくった音楽を記録したり，実際の音で表したりすることが容易にでき，創作表現を創意工夫する活動に集中することができる。
- 自分たちの演奏や作品を録音や録画で残すなど学習履歴を蓄積し，学習の振り返りや学習成果の確認に生かすことができる。



音楽科，芸術科音楽におけるICT活用の際の留意点

- ▼どの学習活動での活用が効果的か，活用場面を精選する。
 - ◎生徒の思考を活性化させたり，創意工夫を促進したりする場面で活用する工夫が必要
- ▼機器を操作することが活動の目的にならないように留意する。
 - ◎指導のねらいを明確にした上で，適切かつ効果的に活用することが重要



音楽科，芸術科音楽におけるICT活用の例

【表現】

- ・自分の歌唱や演奏を録音・録画し，それを再生しながら，表したい音楽表現への見通しをもったり，技能の習得過程を確認したりする。
- ・音を可視化するソフトを活用して，音高や音量，アーティキュレーションなどを確認し，表したい音楽表現を創意工夫するための修正の方向性をもつ。
- ・インターネットを活用して，曲の背景などについての知識を得ながら，歌唱・器楽で表現するための思いや意図（表現意図）を深める。
- ・音楽制作ソフトなどを活用して，音の連ね方や重ね方を即興的に試しながら音楽をつくったり，音色を様々に変化させながら，表したい音楽のイメージを豊かにしたりする。
- ・つくった音楽を再生して音で確認しながら，創作表現を創意工夫したり，ペアやグループで感想やアドバイスを伝え合いながら，つくった作品を修正したり，さらに工夫を重ねたりする。



音楽科，芸術科音楽におけるICT活用の例

【鑑賞】

- ・クラウドに保存された演奏の音源や画像を，自分が視聴したい部分を取り出して繰り返し聴きながら，音楽を形づくっている要素の知覚やその働きの感受を深める。
- ・作品の背景となる文化・歴史，他の芸術との関わりについて考える際に必要な情報をインターネットで検索し，作品に対する理解を深める。
- ・同じ作品を異なる楽器や異なる演奏家による演奏で聴き比べ，音楽表現の共通性や固有性について考えながら，よさや美しさを味わって聴く活動につなげる。



創作の学習でICTを活用する際の留意点

- 1 試行錯誤の対象がICTの機能に向けられていないか
- 2 表したいイメージづくりは十分に行われているか
- 3 表現の工夫がICTの機能の範囲に留まっていないか
- 4 協働的な学習が行われているか
- 5 自分の作品を大切にする気持ちをもたせる工夫を育てているか





特集

1人1台端末等の効果的な活用に向けて①
＜国語，社会，数学，理科，音楽，美術＞

教育小景 松川禮子(岐阜女子大学・大学院 学長)



文部科学省教育課程課編集 

「中等教育資料」令和3年7月号
(学事出版)

特集「1人1台端末等の
効果的な活用に向けて」①

予告：令和4年2月号
特集「高等学校の学習指導と
学習評価の工夫改善」④





♪ ご清聴ありがとうございました。